



暦の上では、春を迎えるものの、一年で一番寒いと言われるのが、2月です。寒さに身を縮めてしまいがちですが、周囲の自然は少しずつ冬から春に移り変わっていきます。昨年、たわわに実った梅の木も花を咲かせています。今の季節でしか体験できない雪や氷などの自然遊びができるよう、私たち保育者も、子ども達に負けずに元気に外で活動したいと思ひます。ご家庭でも、引き続き、お子様の健康管理に気を配っていただき、元気に登園できるようご配慮をお願いいたします。

月	火	水	木	金	土	日
				1 豆まき 年中参観日 KEC	2 自由登園 * * *	3 * * *
4 体育教室	5 リミック いちご	6 スマイリー	7	8 地震避難訓練 KEC KEC 見学会	9 休園 * * *	10 * * *
11 建国記念日 * * *	12 リミック いちご	13 スマイリー	14	15 KEC	16 自由登園 * * *	17 * * *
18	19 リミック いちご	20	21 発表会 予行演習	22 KEC	23 休園 * * *	24 発表会
25 代休 * * *	26 リミック いちご	27 スマイリー	28 誕生日会 スパゲティ	3/1 KEC	3/2 自由登園 * * *	3/3 * * *

幼稚園の豆まきについて

日時 2月1日(金) 年中参観 10:00～ お遊戯室での様子をご覧ください。
 その他のクラス 11:00～ 園庭での豆まきの様子をフェンス越しにご覧いただけます。

保育料の引落について

2月分は、2月1日に引き落とします。
 残高不足で引落が出来なかった場合は、個別にお知らせいたしますので、数日中に現金でお支払くださいませ。

発表会について

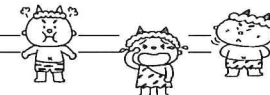
満3歳・年少は、お遊戯1曲、歌2曲
 年中・長、お遊戯1曲、歌2曲、合奏1曲、
 ピアニカ1曲、オペレッタ
 を演じます。学年ごとの成長をご覧いただければと思います。

保健・衛生について

本日時点で、当園の新たなインフルエンザ感染での欠席者は出ておりません。しかし、まだまだ岩国市内では流行している様子です。人ごみへの外出はなるべく避け、やむを得ない時は、しっかりと対策をしましょう。園では、外から帰ってきたら、手洗いをし、こまめに水分補給をするようクラスで取り組んでいます。ご家庭でも、手洗い・水分補給に心がけてください。感染症の予防のためにも、爪を短く整えたり、長すぎる前髪を切ったり、衛生面にも気を付けてください。長い爪は、お友達を傷つけたり、長い前髪は、目に入ってしまうので、よろしくお願ひいたします。

園長より一言 ～5-6歳児の発達を踏まえた運動遊びについて～

脳や神経系は5歳までに80%が発達すると言われており、この時期には自分で考えたり、人の気持ちを察したり、感情をコントロールし、人とコミュニケーションをとる力がとても発達していきます。年長を迎える頃には、身体の成長では、手足を自由に使って全身を動かすことができ、精神的な成長では、集団で物事に取り組む楽しさを知るようになります。年長になって、急にこれらの成長が見られるのではなく、日々の様々な経験から育っていくものです。当園では、健やかな心身の成長を見据えて、様々な働きかけをしています。例えば、年少での活動、クラス対抗しっぽり遊びについてお話ししましょう。近頃は、簡単なルールを理解して、勝ち負けのある遊びが楽しくなっています。園庭を駆け回ってどれだけ多くのしっぽ(違うクラスの)を取れるかで子ども達は大喜び。3回戦行ってリス組が2-1で勝利しました。この遊びの中で、子ども達は、しっぽを取られないように懸命に自分の身体を操る能力を高めます。戦利品のしっぽを日本語と英語で数えたり、同点は英語で Tie(タイ)だと教えてもらって、数字や言葉に関心を深めました。勝敗をつけることで、勝ったクラスはそれを集団で喜び、負けたクラスは、次はみんなでもっと頑張ろうと仲間意識が高まります。まだ、お互い追い追われ、しっぽを取ることが楽しい年齢ですが、年中になれば、友達と言葉を交わし、作戦を立てて遊ぶ姿が見られるようになるでしょう。このような日々の遊びを繰り返すうちに、年長になるころには、小学校にむけて育ってほしい姿に近づいていきます。子ども達は、ただ楽しく遊んでいるのですが、幼稚園での遊びには、保育者の様々な思いがあることを知っていただければと思います。今年度もあと2か月となりました。残された日々を大切に、職員も全力で保育に当たります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



節分は、立春である2月4日(月)の前日の2月3日(日)です。

豆まきの由来 もともと季節の変わり目を意味する「節分」には、邪気を払うために豆をまくという中国の風習がありました。これが太陰暦とともに日本に伝わり、室町時代には現在の節分の風習として定着したといわれています。邪気や厄を象徴するものは「鬼(魔)」であり、豆まきは鬼を追い払うために行われていたのです。豆は「魔滅(まめ)」に通じると考えられ、京都に出現した鬼の眼(魔眼=まめ)に向けて大豆(魔滅)を投げたら退治できたという逸話があり、これが豆まきの由来だともいわれています。炒った豆が豆まきに使われるのは「魔眼を射る」につながるからだ、ともいわれています。幼稚園では、子ども達に、「自分の心に住んでいる、弱虫鬼や、いじわる鬼、泣き虫鬼に怒りんぼ鬼を、豆をまいて退治しましょう」と説明しています。ご家庭でも、2月3日の節分は、日本の伝統を親子で楽しんで下さればと思います。